

とが予測され、効率的かつ厳正な管理運用に努めるとともに、今後の利用動向などを見極める中で、新たな駐車場の整備も検討する。

◆関連質問

- ・医療機器の重点化と駐車場の確保は
(水曜会)
- ・市民病院駐車場の運営について
(新政クラブ)

集約型の都市づくりは

問 少子高齢化と人口減少時代に入り、集約型の都市構造の形成をめざすことなどを基本構造にしたマスタープランを掲げているが、将来を見据えた集約型の都市づくりの具体は。

答 日常的な生活機能が集積する「地区拠点」から、合併町の中心部など、基礎的な都市機能が集積する「地域拠点」、福山駅周辺を中心に高次都市機能が集積する「都心地区」までの段階的な都市拠点の形成と、幹線道路網の整備や公共交通の充実を図ることなどにより、各拠点間の連携を強化することで、地域の一体的な発展をめざした都市づくりを進める。

全員参加による全国学力テストの実施は

問 全国学力テストは、本年度、30%の抽出方式により実施されたが、今後、抽出対象校以外の児童生徒も受けられるよう求めるが、考えは。

答 来年度は、抽出対象校で実施し、それ以外の学校は、調査実施日以降早急に、実施問題、解説資料などを配付し、有効活用ができるようにする。24年度以降については、現在、国において理科の実施と全員参加による調査などを検討している。引き続き、国の責任における全員参加による調査の実施を強く要望していく。

◆関連質問

- ・全国学力テストの今後の対応は
(水曜会)
- ・全国学力調査への対応について
(新政クラブ)

福山市景観計画の推進は

問 17年に景観法が施行された昨年11月、市景観計画の素案が

策定された。今後、景観計画の推進には、条例の制定と計画に関する情報の発信や啓発が重要と考えるが、取り組みは。

答 景観条例については、23年度中の施行をめざし検討を進めている。また、景観づくりを進めるには、計画に関する情報発信が重要であり、まず、自治会などを通じて計画内容の周知を図るとともに、景観に関する冊子の配布や、広報紙への掲載、出前講座の実施ホームページの開設などにより広く市民や事業者に周知していく。

公明党



小川 勝己 議員

「安心して暮らせるまち」の発信について

問 ストレス社会といわれる状況にあって、自殺防止や、がん対策、児童虐待防止への取り組みも「安心して暮らせるまち」の条件の一つではないか。これ

らの問題に対する取り組みを明確化し、市民、また全国へアピールすることが「安心して暮らせるまち」を発信することにつながると思うが、考えは。

答 自殺防止としてのうつ病対策は、関係機関と連携し、精神保健事業をさらに進める。がん対策は、検診受診率の向上などに努めている。児童虐待は、子育て家庭を孤立させない地域づくりを推進し、防止に努める。ストレス社会では、福祉や保健、医療などの施策についても市民や地域と協働し全国に誇れるような、安心して暮らせるまちづくりに取り組むことが必要と考える。

◆関連質問

- ・災害に強いまちづくりについて
(市民連合)

伏見町地区市街地再開発事業について

問 ①この事業は、本市の中心市街地活性化の成否を決する事業ともいえるが、見解は。②中心市街地活性化基本計画の策